新潟県立長岡工業高等学校同窓会東京支部会報

東京支部だより

第　１９　号

発行人：支部長　金井 博光

編　集：会報編集委員会

ご挨拶

支部長　金井 博光(S44M)

昨年度は新型コロナウイルスの感染を懸念し、「総会・懇親会」の開催を“断念”いたしました。あれから一年を経過しようとしております。日本中が一丸となって感染防止策を実施中ですが期待する効果を得る事の難しさを痛感しています。医療関係者の皆さんが危機的な状態となっております。この様な状況下から昨年（令和２年）度の同窓会活動は停滞が続いております。お付き合いをいただいております東京新潟県人会さんをはじめ各団体の皆様の状況もほぼ同様と聞いております。

同窓会として活動できた事は、必要最低限の会議と「支部だより」の発送のみでした。一番行いたい「総会・懇親会」を中止にした事へのインパクトは大きな心残りとなりました。会員の皆様にはこの様な状況におきましても、前年を上回る会費の納入をいただきました。誠にありがとうございます。皆様からお預かりいたしました会費は大切に利用させていただきます。

さて、母校が来年の令和４年で創立 120 周年を迎えます。誠におめでとうございます。記念イベントにつきましては同窓会本部が窓口となり、母校と協議を重ねておられます。東京支部といたしましても、本部が中心となって推進されるイベントには全面的に協力させていただくつもりです。開催されます記念行事へは皆様のご協力もお願いする事になります。母校からは地理的に離れておりますので、きめ細やかな支援はできません。よって、寄付とイベントへの参加をお願いする事になると考えます。特にイベントへの参加につきましては是非ともお願い致します。母校生徒と触れ合う事による新鮮さや感動が、あの頃の自分に戻った感覚となります。日常では体験できない事に遭遇するチャンスです。私達が学んだ校舎は既に立て替えられ懐かしむ事はできませんが、後輩を見ていると私達の青春が戻って参ります。あの頃の貴重な体験や思い出を脳裏に浮かべる事ができるのは母校が存続しているからです。これだけでも出席した価値は有ります。是非とも“出席”をお願い致します。

令和３年７月３日（土）に開催を予定しておりました東京支部の「総会・懇親会」は新型コロナウイルスの収束を待つことで開催を“断念”いたしました。２年連続の中止となり、誠に残念ですが次回までお待ちいただく事になりました。来年度には開催できる事を心待ちにしております。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

ご挨拶

副支部長　原 勝英(S46M)

同窓生の皆様、ご無沙汰しております。昨年は中国武漢発のコロナウイルス感染で、日本のみならず世界中に拡大し、同窓会が中止になり皆様にもご心配をお掛けしました。世間ではテレワークによる新しい生活様式の始まりと申しておりますが、私的には欲求不満の一年でした。

令和 3 年度を考えると、世界的に感染の拡大が収まらず、1 月末には 1 億人以上の人が感染し、200 万人以上の方がお亡くなりになっているのが現状です。先の見えない状況で、明るいことは今年の 2 月から医療従事者に対するワクチンの接種が開始され、国民に対する接種予定計画がでたことです。

さて、長工同窓会東京支部も高齢化が進み、若い方の参加が少なく憂慮しております。特に卒業生の就職先が地元主体になり、関東地区に就職する方が少なく、平成 1 年～平成 5 年までの会員は 11 名、平成 6 年～平成 27 年までの会員は 6 名です。この状況で東京支部をどのようにするかが課題です。役員で一番若い方でも 67 歳で、50 代、60 代前半の方がおりません。今後この状況が進むと同窓会の存続並びに運営に支障をきたして参ります。

対応としては昭和 55 年～63 年迄の各年度卒の同窓生は 10 名前後おり、何らかの形で同窓会に参加して頂くよう勧誘を行うと同時に、同窓会の楽しさも知ってもらいたいと思っています。

私ごとですが、同窓会の初参加は（株）昱の小池修三先輩（S10M）より再三の案内が有り 28 歳の時でした。初めてと言う事で会場には知り合いの人がおらず、一人さみしくお酒を飲んで帰った記憶があります。その後 2 年空け

て 31 歳の時再び参加したところ、S46e 卒の野﨑君と出会い同期と言うことで話も弾み、電子会の二次会で小高様(S37e)が私の中学校の先輩である事が分かり、話も弾み楽しい時間を過ごすことが出来ました。

この年、機械会の会長井口正一様（S23M）より「機械会の役員として同窓会を手伝って欲しい」との依頼があり、それ以後同窓会との付き合いとなり今日に至っております。

最後に役員として気をつけている事は、初参加者に寂しい思いをさせて帰すのではなく、気持ちよく帰って頂く事が次回に繋がると考えております。「世代は繋がる　心は結ばれる　同窓会の絆は永遠」をモットーに。

本校の近況について

長岡工業高等学校 学校長　髙橋 俊司

令和 2 年度から、皆様方の母校、新潟県立長岡工業高等学校の校長を拝命いたしました髙橋俊司でございます。校長としての勤務経験は、現在の長岡工業高等学校が 3 校目で、前任校は新潟県立中条高等学校でございます。出身地は新潟市南区（旧白根市）で、今年 60 歳になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

この度の「東京支部だより第 19 号」発行、誠におめでとうございます。昭和 54 年から、関東地区において組織的な活動を続けて来られる中で、ご卒業の皆様方の母校に対する熱い思いをまとめ、東京支部が充実・発展して来られたことに対しまして、心より敬意を表すると共に、これまでご尽力いただいた皆様に、母校職員を代表いたしまして、深くお礼申し上げます。

さて、令和 2 年度の本校の状況ですが、皆様方もご存じのとおりコロナ禍により様々な教育活動が制約を受けました。新潟県の公立高校は、4 月 15 日から臨時休校となり、授業再開は 6 月 1 日、部活動再開は 6 月 8 日でした。その後、1 学期は各種大会や学校行事は中止せざるを得ず、2 学期以降も様々な取り組みで「3 密」を避ける対策を講じながらの実施となりました。

その中で、令和 3 年春には 4 学科 6 コース、6 学級の生徒 225 名が無事卒業し、114 名が国公立大学を始め県内外の大学、高等専門学校、短期大学、職業能力開発大学校や専門学校に進学し、105 名が地元を支える優良企業等に就職いたしました。

国公立大学への進学者は 17 名で、地元の長岡技術科学大学や新潟大学に、県外では山梨大学に進学するなど、また、令和 3 年度から開学した三条市立大学にも進学し、生徒自らが将来の進路に合わせ幅広く進学先を選択するなど、好ましい状況でございます。

就職については、コロナ禍の影響で求人状況や採用数など心配いたしましたが、幸いにも地域を支えている基幹産業である製造業からは、今までと同様の求人・採用をいただき、安堵しているところでございます。

一方で、高校は令和 4 年度からの新学習指導要領実施に向けての準備が進められる中、国から令和 2 年 10 月に「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中間まとめ）」、同年 11 月に「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ審議まとめ」が示され、高校を取り巻く教育改革は待ったなしの状況でございます。

このような状況下で、本校は令和 2 年度に文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」アソシエイト校（予算措置はなし）に指定され、全国の発表会等に参加し研究を進め、教育活動の充実に努めると共に、「地域との協働」を今まで以上に深めていくことが重要と考え、令和 2 年 11 月に磯田達伸長岡市長様を立会人として、本校と長岡産業活性化協会 NAZE 様、株式会社タワシテック様、株式会社七里商店様との四者で「ロボット人材育成に関する協定」を締結いたしました。

この協定は、令和元年 11 月に締結した「デジタルものづくり人材育成に関する協定」をさらに推進させるため、「ロボットイノベーション」など長岡市が抱える課題を高校が共通の課題として協働しながら「ロボット人材育成」に寄与することを目的としております。

今後も長岡市と人材育成の目的を共有しながら、地域産業会の皆様方からのご支援をいただき、様々な取り組みを行っていきたいと考えております。

結びに、同窓の皆様方のご支援、ご声援は、学校の大きな力でございます。令和 3 年度から少子化に伴い、現在の 1 学年 6 学級が 5 学級の 1 学級減となるなど、本校が抱える課題はありますが、これからも同窓の皆様方と共に、本校の「新しい歴史」を刻みつつ、「変わらない伝統」を守っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

長岡工業高等学校同窓会 本部事務局長　品川 十英(S50M)

日頃は同窓会活動に、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。今年度より、本部事務局長に就任させて頂きました、昭和 50 年機械科卒業の品川十英と申します。皆様にご挨拶する機会もなく、誠に申し訳なく存じておりますが、何卒よろしくお願い致します。

母校も創立 120 年を迎えようとしておりますが、これを機に、同窓会もより結束を強め、母校の発展に寄与すべきと考えております。長岡工業高等学校の発展に本同窓会が寄与することで、大げさではありますが、日本の発展に大きく寄与するものと確信しております。

令和 3 年度より新規事業として、東京支部長の金井様を始め、全ての理事の皆様からご承認を頂きました、「無料職業紹介事業」「長工大賞紹介事業」を始めさせて頂きます。「無料職業紹介事業」は、母校を卒業後もしくは、母校を卒業後大学に進学し、大学卒業後に務めた企業等を、何らかの理由で辞職した同窓生の就職支援を行うことを想定しています。今後、中途の再就職はより厳しいものと考えて始めさせて頂く事業です。これには、同窓生のネットワークが大きな力になると確信しております。

「長工大賞紹介事業」ですが、長工大賞受賞者を母校の在校生に紹介することで、在校生が、自身の将来像を描く時の指針にしてもらえればと考えて始めさせて頂きます。紹介の方法は、長工大賞受賞者のパネルを母校内に掲示し、在校生に見てもらうことを考えております。「無料職業紹介事業」も「長工大賞紹介事業」も母校校長高橋様からご承認を頂いており、期待をされております。

末筆にはなりますが、東京支部の皆様の益々のご活躍とご発展をご祈念申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます。

交流の思い出

長岡工業高校同窓会と若波会（目撃情報）と私

若波会 新会長　藤下 幸伸

なにやら彼女はそわそわしています。なぜなら階下で長岡の文字を目にしたからです。10 年前、上野の池之端文化センターで佐渡の女子高同窓会に若波会がお呼ばれし、佐渡民謡を披露するためにやってきました。その時は地方（唄、三味線、笛、太鼓）と立方（踊り手）総勢 12 名。昭和 33 年のアジア競技大会のアトラクションで 1,000 人の佐渡おけさを披露する為に結成され、昭和 45 年に若波会と佐渡の地元、佐渡おけさを全国に広めた立浪会から命名され、昨年の令和 2 年で 50 周年を迎えました。彼女は若波会の会員、高校時代、水泳でならした豪傑、競技大会で長岡の悠久山プールで泳いだという彼女は、階下で開かれている長岡工業高校 東京支部同窓会を覗きに行ってしまったのです。

その頃の同窓会 東京支部長は並木政治さんでした。そして佐渡おけさを披露することの話までつけてきてしまい、私達は恐る恐る会場入りしアトラクションに加えていただくことになりました。しかも踊り手の先頭はこの私、そのことをきっかけに私達は毎年、長岡工業高校同窓会東京支部総会にお呼ばれすることになったのです。

いつもイベントには若波を応援してくださる長岡工業高校同窓生の皆さん、とても心強いです。やがてコロナ明けがやってくるでしょう。その際には一緒に新潟をもっともっと盛り上げるイベントで活躍しようではありませんか。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

『長岡甚句』と私

若波会 前会長&佐渡ふるさと大使　斉藤 実

長岡工業高校同窓会 東京支部の皆様には日頃大変お世話になっております。私と長岡とのかかわりは数多くあり、深いご縁にビックリしております。（紙面の都合上内容は紹介できませんが）私たち若波会が 10 年程前から皆様の総会・懇親会で佐渡民謡を披露させて頂いているうちに長岡甚句を知りました。長岡甚句の一節をご紹介します。

『長岡甚句』

ハァーエーヤー　長岡　柏の御紋（ハァヨシタヨシタヨシタヨシタ）　七万余石の　アリャ　城下町
　　イヤーサー余石の　アリャ　城下町（ハァヨシタヨシタヨシタヨシタ）

ハァーエーヤー　お山の　千本桜（ハァヨシタヨシタヨシタヨシタ）花は千咲く　成る実は一つ
　　イヤーサー千咲く　成る実は一つ（ハァヨシタヨシタヨシタヨシタ）
ハァ―エ―ヤ―流れます　細谷川よ（ハァコシタコシタコシタコシタ）重ね箪笥が　七棹八棹（ななさおやさお）
　　イヤーサー箪笥が　七棹八棹（ハァヨシタヨシタヨシタヨシタ）

毎年 8 月の長岡祭りの民謡流しで唄い踊られていますが、唄の方は越後に数多く残る甚句のひとつです。伴奏には三味線に笛、太鼓が入ります。返しを下の句の三文字を取って繰り返す歌い方は新潟や長野北部あたりの甚句の中にあるようです。長岡藩７万４千石の城下町でこの長岡甚句を牧野公も河井継之助も唄い踊った事でしょう。

また、山本五十六元帥も戦地で良く口ずさんでいたとか、そして今では毎年の長岡祭り民謡流しでと・・ふるさとを想う気持ちが脈々と受け継がれているのでしょう。長岡は私の思い出深い大好きな町であり、長岡甚句は好きな民謡の一曲でもあります。さあ！皆様、長岡甚句を唄い踊りましょう！

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

練習に熱が入る若波会さんと接して

支部長　金井 博光(S44M)

東京支部と 10 年以上に亘るお付き合いをお願いしている「若波会」さんは、昨年の令和２年で創立 50 周年を迎えられました。誠におめでとうございます。長期に亘る活動が継続されておられる事に敬意を称したいと思います。

私共の「総会・懇親会」では佐渡民謡を３曲程お願いしておりますが、最終曲の「佐渡おけさ」で会場内を一周する輪踊りを踊られます。私達同窓会のイベントに出場をお願いしました頃は、その輪に入って踊る同窓生は少数で、寂しい輪踊りとなっておりました。その事がきっかけとなり、若波会さんの６月の練習日（4 回程）にお邪魔し「佐渡おけさ」の曲が流れる時だけ教授を受ける事となりました。長工側は自由参加で、少ない時で４名くらい、多い時で 10 名程が参加しております。練習参加への人数制限はありません。これにより輪踊りに参加できる同窓が徐々に増えて参りました。「間違っていてもいい、楽しめるなら」をモットーに、私も数年前から参加させていただいております。

若波会さんは近年重要なイベントへの出場機会が増しておられます。国内各地に加え、グアムやハワイへも遠征されました。昨年は NHK のドラマにも出演し踊られております。「何故、若波会さんに出場の機会が多く、皆様に期待されるのか？」これが私の素朴な疑問となりました。練習に参加させていただいた事で、その解を得られた気がしています。踊り手だけでなく、太鼓や笛、三味線、歌い手、も含めて多くの方がその役割を兼任できます。「笛を吹いていた方が次の場面では踊っている」、「太鼓をたたいていた方が次の場面では歌い手として活躍されている」、マルチで動ける方が多いのです。イベントへの出場依頼に対して、スケジュール調整で不都合な方がおられても、参加できる方だけで全ての役割をこなす事ができます。組織の層が厚い事が分かりました。

若波会さんは練習が一段落すると着物から洋服に着替えられます。私達がお邪魔している前で、男女関係なく平然と着替えられます。まるで部外者がいない如くにです。全てが自然で日常的です。着替え終わるとミーティングが始まり、数か月先までのイベントが紹介され、参加者や集合方法の確認をされております。その後に、やっと解散でした。練習されている場にお邪魔した事でハッキリした事は、活動されておられる方の意識レベルが高く、結束力も強い事がわかりました。これが“活動の原動力”で周囲から期待され、声のかかる若波会さんになっていると思います。私達同窓会の活動にも参考になる事が多々あると感じました。

長工同窓会東京支部との交流に思う

村松高等学校 東京同窓会 会長　大橋 貞夫

平成 25 年、ある日の幹事会に於いて、松高東京同窓会の更なる活性化には他校との交流が必要と決まる。そこで、登録有形文化財である母校の正門と深い絆で結ばれた長岡工業高等学校との交流が最も相応しいとの結論になる。種々連絡を取り、平成 26 年２月に記念すべき第１回両校の交流会が開催された。席上、両校の総会にお互いの役員が参加して盛り上げようと意見が一致。早速、同年６月７日にホテルグランドパレスで開催した当校の第 57 回定期大会に、星野副支部長様ほか４名の役員の方々にご出席を賜った。その後、10 名近い役員の相互訪問が続いており、大変喜ばしい事と思っている。

平成 29 年２月 16 日には、第１回親睦ゴルフ大会を 16 人が参加して開催され、第３回まで続いた。交流会も令和２年２月 19 日まで７回開催されたが、２月後半から新型コロナウイルスの脅威が次第に強まり、本年の開催は難しい状況にある。コロナウイルスの変異種は感染力が 1.7 倍に強まると云われ、感染者数も全国的に増えている。緊急事態宣言が発出されたが、効果があるのだろうか？ 疑問であるが、心底より新型コロナの収束を願うばかりである。

「参加会員が増えない中で相互応援」

事務局長　成田 修(S44M)

事の発端は新潟県立村松高等学校・東京同窓会から長工同窓会本部に情報交換・交流の申し入れがあり、地域が東京ということで当支部に話が回ってきたと聞いております。当支部としても村松は母校創立の地であり、当支部の活性化にも役立つと判断し、平成27年度より交流が始まりました。

交流の内容としてはお互いの年1回の総会に役員有志の相互参加を行うとともに、年1回の役員同士の交流会を行うことになりました。その結果、この6年程の同窓会の交流を通してお互いに校風のようなものを感じる中から、いろいろな意味で学ぶべき面を見出すことを出来たことが大きな収穫だったと感じております。

昨年からのコロナ感染拡大で両校同窓会とも6月、7月に予定していた総会が中止となり、今年も2月に予定していた交流会は開催出来ませんでしたし、当支部は今年度総会も開催が難しい状況です。年々会員の高齢化が進み、参加者が少しずつ減っている状況かと思いますので、お互いに少しでも長く同窓会活動が維持継続できるよう協力し合って行きたいものです。

長工同窓生の皆様の暖かさに触れて

歌手　舞 さくら

出会いは今から4年前、椿山荘での新潟県人会の集まりでした。母がその頃マネージャーのように挨拶に回っており、海の柏崎会のちょうど隣のテーブルに長岡工業高校同窓生がおられました。すぐに意気投合、私が結構いけるくちという事もあり、とても暖かく迎え入れて下さいました。その後、歌唱披露も含め、上野公園にて長工花見会に呼んで頂き、とても有難く、そして楽しく過ごさせてもらいました。2次会はカラオケボックスでのどんちゃん、皆様お酒が強く、私もジョッキでビールを何杯も飲み大いに盛り上がりました。また、全員が歌唱力抜群、哀愁あり、個性豊か、迫力満点と、なかなか魅力的な方たちだなあ・・と感じた日でもありました。その後も長工新年会、総会、ふるさと文化交流展、芸能大会とお声を掛けて頂きました。

特に、一昨年2度目の長工花見会では若波会の皆様とご一緒させて頂き、なんとその後「佐渡を世界遺産にする首都圏の会」では若波会の皆様との共演が実現しました。長工の皆様のおかげです。

昨年はコロナ禍により、全ての活動がキャンセル、延期となり、皆様とお会いする機会がなく、とても残念な年となりました。今年こそは皆様の明るさ、やさしさ、温かさに包まれながら一杯やる日が一日でも早く訪れる事を夢見ています。

最後に、とりまとめておられる樋口昭さんへの全員の信頼、尊厳、感謝の気持ちが暖かさとして伝わってきて、心ひとつになっているのを感じます。それを一言でいえば「同窓の絆」と言えると思います。そんな羨ましいくらい仲の良い皆様にこれからも深く、長くおつきあいを続けていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

東京新潟県人会並びに越後長岡ふるさと会と長工

副支部長　原 勝英(S46M)

「東京新潟県人会」並びに「越後長岡ふるさと会」についてお話をさせて頂きます。初めに東京新潟県人会との付き合いは、長工同窓会の役員会を県人会館の会議室を借りたことが始まりで、会員としての申込みは平成23年に行いました。

会員としての参加行事は、新年祝賀会、納涼まつり、芸能大会、どぶろくを呑む会、作品展等に多数の会員が参加しております。平成30年より我が長工の樋口顧問が文化委員会委員長に就任され、私に応援要請があり平成30年11月より文化委員会委員として、樋口顧問を応援しております。

毎月1回の定例会議、新年祝賀会及び納涼祭りの受付、作品展開催等の活動が主な内容です。また、昨年東京新潟県人会は創立110周年を迎え、県人会館の建替え工事が完成し12月に竣工式が行われ、会館名が「ふれあいふるさと館」と命名されました。

次に越後長岡ふるさと会は、平成27年設立時からの付き合いになります。こちらも東京新潟県人会同様に多数の会員が参加されており、参加行事は、総会・懇親会、長岡探訪ツアー、越後長岡ふるさと会フェアの3本が柱になっており、越後長岡ふるさと会フェアには販売の応援活動も行っております。

特に長岡探訪ツアーにはほとんど参加しており、今ながらに訪問していない地域が沢山あり、改めて地元の事を知らないことに気づかされました。

2代目会長の小畑幹夫様は、私の中学校の4年先輩で、参議院事務総長の要職を務められ退職されました。一昨

年は長工同窓会に対して参議院の案内をして頂き、初めてのことで驚くばかりでした。

しかし、一昨年の秋に事務局のある方より小幡幹雄様が病気である事を知らされ、且つ本人より年明けに治療のため入院するというお話をお聞きしました。そして昨年8月の新聞の全国紙に小畑幹大様の訃報が掲載されており、72歳という若さと言う事で残念でなりませんでした。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

最後に、昨年来からのコロナ感染の拡大が続いており、早く終息することをお祈りいたします。

新役員紹介

スキー人生・・音楽人生・・

名簿担当理事　野﨑 敬策(S46e)

この度、新役員を仰せつかりました野﨑です。皆様のお役に立てるかわかりませんが、どうぞ宜しくお願い致します。

私は昭和46年3月に電子科を卒業致しました。電子科では第10期生となります。出身は守門山の麓、南蒲原郡下田村吉ヶ平（中学卒業前に閉村）です。中学は年間を通じ寄宿舎生活でした。中学で競技スキーをやり（新潟県中学スキー大会で回転準優勝）高校も新潟に残りました。既に実家は埼玉に転居していました。入学後早速スキー部に入部し、最初のシーズンの合宿が今でも心に残ります。合宿は石打丸山スキー場でした。スキー部OBや先輩方と一日中スキーの練習（アルペン3種）に明け暮れました。しかしスキーはお金がかかり、経済的理由で2年の夏に泣く泣くスキー部を退部しました。その後は放送部と郵便友の会に籍を置き、3年の時は長岡厚生会館でのマンドリンクラブの演奏会で演出を担当しました。

スキーはその後特技として続け、卒業前の新潟県青年スキー祭典で大回転優勝を果たしました。卒業後は松下電器に入社し、中央研究所スキー同好会に所属し、所内のスキーツアーでは上級者の指導員をやりました。横浜に転勤後も月山の春スキーなどで楽しみましたが32歳の夏、椎間板ヘルニアとなりスキーを諦めました。

中央研究所にはコーラス部が有り、初めてコーラスの魅力に触れました。3階のラウンジにはアップライトピアノが置いてあり、時々触っていました。関西合唱コンクールにも参加しました。横浜ではYMCA合唱団に暫く所属し、二期会の声楽家とも知り合う機会が生まれ、オペラ「魔笛」にも出演しました。それからはピアノと歌が人生の楽しみとなり、今は音大出のピアノ・バイオリン・サックスフォーン・オーボエ・フルート・パーカッション奏者などとお酒飲みながら楽しんでいます。機会が有れば東京支部懇親会の場で演奏させて頂くことも可能です。

同窓会東京支部の存在は電子科一期生の故小高氏（横浜で一時同部門）から聞かされ、同窓会への誘いを受け上野池之端文化センターに行きました。当時は参加者も多く、各科毎の総会でした。総会終了後は科を問わず先輩方に誘われ二次会で楽しみました。これからの支部活動発展を祈ります。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

自己紹介

総会・懇親会担当理事　中島 義春(S46e)

初めましてという方々が大半かと思います。このたび原副会長から役員のお話をいただきました。総会等に参加し約20年足らずで皆様からみれば若輩者であり、また微力でありますので逡巡したのですが、少しでもお役に立たてればと思い役員を引き受けさせていただきました。

簡単な自己紹介をさせて頂きます。私は、昭和46年電子科を卒業し、大学受験で上京。以来、学生時代から今日まで東京都豊島区に在住しております。大学は全く畑違いの法学部を卒業し、第1の人生は20数年間、土地家屋調査士事務所で登記事務の仕事をしてきました。

第2の人生は平成11年4月の統一地方選挙で豊島区の区議会議員に当選をし、平成31年4月まで20年間努め、引退いたしました。今は第3の人生ということで、昨年マンションの管理人をしながら宅建士の勉強をし、10月の試験に合格しました。現在、不動産業の実務を覚えるために、求職中です。

議員時代、住宅対策審議会の審議員を長年携わってきた中で、高齢者の住宅対策が重要な課題と感じていました。課題解決のために、どこまでできるかわかりませんが、自ら飛び込んで実践しようと第3の人生をもがいています。

皆様とお会いできる日を楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

会員だより

三菱重工に入社して

松永 巌(S20M)

長工四年修了で、飽くなき向学心で東大迄進み、教授の奨めで研究室に残ったが物造りに魅力を感じ三菱重工に入社した。スイスの会社と水車の技術提携をしたばかりで、資料図面は全てドイツ語、一番苦労したのは材料選定、図面の記号の JIS 相当を探し出す事であった。8 年後スイスに半年間技術習得、困難とされて居た低落差開発を研究、日本の初号機を設計、日本機械学会誌にも載せた。

同時にカード方式による工程管理に関する論文も纏めた。これにより職制改正で管理課長の職に就いた。時恰も三菱三重工合併の準備で業務多く、若輩乍ら機種統合に一役買った。合併後産業機械の開発に従事、タイヤ製造のプラント輸出、ブラジルでの生産等に迄発展させた。

本社に勤務、三部兼務する程の多忙を極め、昭和 56 年米国駐在、現地法人の必要性を強調、設立を実現、製品の現地生産等を加速させ帰国、6 年間の部長職を全うし、昭和 62 年定年退職した。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

随想

顧問　樋口 昭(S29E)

世相は自然と異なり、観桜、紫陽花、向日葵も無い、各種行事は自粛、コロナ軍の猛攻は生活環境を変えた。

コロナ軍、敵は一つで有るが全世界を攻撃している人類共通の難敵である。その防御に世界が一つでなければならないが、国際間、宗教間、民族間等の対立が激化している。

対応の難しさ、人間の愚かを想う。コロナ禍と共に地球温暖化、気候変動で、社会構造は驚異的に進化する。明治維新の改革に想いする。

現在技術は素晴らしく、はやぶさ-2 宇宙技術、コロナワクチンの 1 年で開発、実用化の医学技術は驚嘆で有る。

革新を作る人、革新を使う人、革新に使われる人、革新を使えない人、

「独」、「黙」、「対面無用」、「紙と活字が不用」の時代。

尊い日本伝統文化、道徳、武士道の継承を望む。

社会構造が革新と成るも、同窓会の目的「会員の親睦、交流、絆」「母校の教育方針の支援」等、120 年の伝統ある長工精神「質実剛健」を継承、堅持し、多様化する価値観を受容し、各種、各界と交流、親交を広め、見聞を深め「共通の価値観の創造」が同窓会活動の活性化で有ると思います。

世代が繋がる
心が結ばれる
同窓の絆は永遠

を理念に長工精神を継承し、伝承し東京支部の発展を願い、母校、本部の益々のご隆盛をご祈念申し上げます。

長工健児此処に在り
国の栄をいざ計れ

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

「かっぽれ」談義

監事　片桐 謙一(S31W)

私が踊り「かっぽれ」に興味を持ったのは、たまたまテレビで街の話題として放映された新宿に新しくできた「かっぽれ」道場を見たからです。全身運動の踊りなので健康促進やダイエットの効果に役立つのでやろうと思ったのがきっかけです。

踊りは古典芸能として、一般的に寄席などで見る位ですが、昔から幇間といわれる太鼓持ち、男芸者がお座敷などの宴会の席で俗曲にあわせて踊る滑稽な踊りです。映画で三木のり平が宴会シーンの中で「かっぽれ」を踊る珍芸が印象にあります。

昔、築城の際、堀を作る人足に繰り出された人達の「かっ掘れ」の掛け声が「かっぽれ」になったという説や、江戸時代に大阪住吉大社の住吉踊りが変化したという話もあります。

また、広重の浮世絵江戸百景の中にも描かれています。坊主頭姿で浴衣に平ぐけ帯になった姿で寄席に登場し人気が高まり、芸妓さんがお屋敷で盛んに余興として歌い踊り、上流階級の接待の宴会で

知られ広まった様です。歌舞伎の舞台でも踊られています。

日本の芸能には家襲名制度があり、江戸芸「かっぽれ」として豊年斎五代目家元 櫻川ぴん助が本流「かっぽれ」を残すべく活動し、浅草三社様の境内で大道芸として踊りを披露しています。

私の踊りは、お師匠さんである若柳流師範「慶雅」お姐さんに稽古をお願いしています。毎度お叱りとダメ出しで恐縮の限りです。体の続くまで精進したいと思っています。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

ソフトテニス人生

名簿担当理事　加藤 智(S40C)

私が軟式テニスを始めたのは長岡工業に入学してからです。最初はボールになかなか当たらず苦労しました。入部して 1 週間後くらいに水道タンクまでのランラニングが始まりました。毎日です、きつかったですね。
思い切って打てるようになったのは冬の体育館での先輩からの指導でした。今でいうシュートボールです。高校時代は全く目が出ませんでした。

就職した会社にテニスコートが 1 面あり、同期入社の人たちとクラブに入り練習しました。このころは木製のラケットでかなり重かったです。その後アルミのラケットが出来て軽くなり、上達して昭島市の大会で優勝しました。練習中にアキレス腱が切れ、子供のサッカーでコーチをしているときにも反対のアキレス腱を切りました。この時は女房に会社まで送迎してもらいました。

ここで足を鍛えるために、電車通勤と車通勤半々にしました。この時体重 74 キロ、高校時代は 58 キロでした。現在は 64 キロ、重いですね。現在はあきる野市で金・月(9 時～13 時)、日(9 時～15 時)に練習しております。日曜日は 2 時間ジュニアの指導をしており、笑顔と元気をもらっております。10 年位前まで夏休みに母校のテニス部員と OB が集合して練習と試合をやりました。懐かしいですね。あと 10 年はやりたいですね。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

先輩の心遣いと母の手紙

総会・懇親会担当理事　今井 広(S46M)

1971 年に高校を卒業し、新潟鐵工所長岡工場に入社した。配属先は機械の組立であった。仕事にも慣れ 1 年が経とうとした頃、東京本社へ約 3 年間の転勤を命ぜられた。転勤後は慣れないデスクワークもさることながら、周りは殆どが年上の大卒者であり、なかなか話の輪に入れない辛い孤独な日々を過ごしていた。

転勤から半年ほど経ったある日、職場の先輩（長工卒 42M）から「今井、会社の奨学金制度を利用して夜間大学へ行け」と言われ、とても驚いた。その先輩も長岡工場からの転勤者であり、私の日頃の様子を見て心中を察してくれたに違いない。私はこんなチャンスはないと思い、すかさず「はい」と返事をした。実家から高校の教科書を取り寄せての猛勉強が始まった。先輩も私の出張を少なくするなどの後押しをしてくれた。

だが、問題は長岡の両親であった。父は賛成したが、母が反対であった。後継ぎの私が「東京の学校を出れば、長岡には戻れないだろう」が理由であった。説得を試みても母の気持ちは変わらなかった。だがある日、母からの手紙が届いた。文末に「踏まれても根強くあれ道草の、やがて花咲く春がくる」と書かれ、本物の道草の押し葉が添えてあった。賛成してくれた安堵と同時に母の胸中を察すると涙が溢れ、眠れない夜を過ごしたことを覚えている。無事に大学を卒業した。今でも大学に行けたのは先輩と母のおかげだと思っている。その先輩も 2006 年に 58 歳の若さで他界し、母も 2017 年に 95 才で天に召された。母の予想どおり、転勤 3 年が 30 数年になったことは言うまでもない。若き日の忘れられない思い出である。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

応援歌の楽譜

勝沼 正敬(S36E)

60 余年前、長工に入学して間もなく放課後に早速始まったのが応援練習でした。歌うことは好きでしたから、ただでかい声で歌えばよいと威張りくさって怒鳴る応援団員（当時の応援団員の先輩が読んでいたら御免なさい）の指示による、その練習時間も嫌ではありませんでした。ある時、教える人により歌い方が違うので、楽譜を見せてくださいと頼みましたが、そんなものはないと言われたことを憶えています。

それから約半世紀の後、東京支部同窓会に歌の会（LGC）ができました。月に 1 度集まって練習し、その後は昼食会やカラオケで楽しむという、ほのぼのとして愉快な集まりです（残念ながら 2020 年 3 月から新型コロナウイルスのせいで練習会ができなくなっています）。

LGC は、2010 年から支部総会の余興に出演しています。2013 年からは総会参会の皆さんが校歌や応援歌を歌うとき、ステージに立って先導する役目を仰せつかりました。そうなると、練習しておかなければなりません。憶えてい

た音を五線紙に起こし、LGC の皆さんの記憶ともすりあわせて、楽譜を作りました。

2018 年の同窓会東京支部創設 40 周年記念の総会で、校歌と応援歌を CD に収めて記念品の一つにすることになりました。その時期、並木前支部長、樋口支部長も在籍しておられた関係からでしょうか、LGC の歌唱で収録することになりました。そう決まって 1 年間、一生懸命に練習したことを思い出します。CD が完成し、40 周年記念総会で配られましたから、私たちの記憶の中の応援歌のメロディーも公認されたことになるのでしょう。

応援歌の文語調の高尚な歌詞とそれにぴったりなメロディー、歌うたびに素晴らしいと思っています。が、「勝利の歌」の“おい、どんなもんだい”の部分だけは他の歌詞に比べて大いに違和感を覚えている私です。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

私の趣味「300 点ゲーム達成」(70 歳)

近藤(旧姓高橋) 宗一 (S31E)

日本におけるボウリング発祥の地は、今から 160 年前の 1861 年 6 月 22 日長崎の異人館（社交サロン店）に伝来したのが最初と言われ、ボウリングの日となりました。私も会社定年後から、妻と健康維持向上の為に始めた地元・所沢スターレーンの「シニア・レディース」リーグ戦へ参加してから、12 年目の夜、夢にみた「パーフェクト（300 点）」を達成する事が出来ました。最後のストライクが出た瞬間には、リーグ戦参加の皆さんからは温かい声援と拍手で迎えて戴き、振り返る時は思わず両手を挙げ歓呼に応えながら感激したその瞬間を噛み締めました。

本当に夢を持ち続け健康で妻と一緒に仲間達と毎週楽しく通ってきた甲斐がありました。これからは 80 歳以上の「全国長寿ボーラー大会」へも参加しながら皆さんと元気に投げ続けることを楽しみにチャレンジしたいと思います。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

金井支部長ご子息、金井伸弥氏の作品が日展で特選を受賞

広報・記録担当副統括理事　竹津 弘幸 (S46E)

金井支部長のご子息が日展（改組 新 第 7 回日本美術展覧会）の第 4 科(工芸美術)で特選を受賞されたとの朗報を受け、11 月 5 日の午後、“芸術の秋”ということで会社を抜け出し、六本木の国立新美術館に行ってきた。

金井伸弥氏の作品名は、“「志向」その先”、受賞理由は、“相対する二つの方形は左右して素晴らしい緊張感を生み出し、空間を支配している。全体の黒と白金のラインを深い赤の上絵がぐっと引き締め、彫刻的な陶体は、作者が追求する「志」を力強く語りかけてくる”との評であった。

実際の作品を鑑賞した印象は、素人目にも受賞理由のとおり大変素晴らしく、他の作品とは違う力強さを放っていた。

日展は機会があったら一度は足を運んでみたいと思っていたが、今回ゆっくり鑑賞できたことは新しい刺激もあり貴重な時間であった。出品作を見て回るには、「工芸美術」だけで相当時間がかかったが、 他の「日本画」「洋画」「彫刻」「書」も一通り鑑賞することができた。個人的には「日本画」に一番興味を持っているが、出品数が多いことに驚くとともに日本全国には多彩な才能を持った方が多くいらっしゃることを改めて実感した次第である。 長工同窓生の関係者がこのような一流の芸術で活躍されていることは普段知る由もなく、今回の鑑賞を通じ金井伸弥氏の今後のさらなるご活躍を祈念している。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

新潟県人会ダンスクラブ

大橋 淑宏(S33M)

平成 11 年、愛知県工場で 10 年間の単身赴任生活を退社にて終え、これから何をするのか不安と、これで家族と一緒に暮らせる安堵感の複雑な心境の中、今後の健康志向に何をするか思案して、ランニング、太極拳、少し覚えのある卓球など。子供の頃から運動は苦手な自分と病弱な妻を考えて、深夜放送でジャズに心酔していた事から二人で社交ダンスならと初めて 15 年続けるも、覚えが悪く教えられたステップを順序通りに踊ることしか出来ない。

憧れの海外クルーズ旅行で、デナーの後に行われるダンスタイムで、外国人に混じって日本人カップルがフロアーで華麗にステップ踏む姿に誘われ、挑戦するも今もって上手くいかない。

2013 年 7 月東京新潟県人会にダンスクラブが結成され、多くの参加者を集め、県人会館で盛大なオープンセレモニーで始まりました。現在は熱心な指導者八木橋昭子先生により、初心者向けに丁寧なレッスンを月 2 回開催しております。

昨今のコロナ感染防止策から、マスク着用のレッスンも二人でホールドを組むしぐさは濃厚接触のイメージ大きく、3 月現在、その活動を一時中止しております。適切な時期に再び活動を始める事を期待しています。

◇*◆*◇*

野菜つくりに感動

名簿担当副統括理事　塩入 晴夫(S46M)

定年まで会社勤めをして退職。下手なゴルフの他に特に趣味が無かったため、田舎にいた頃の野菜作りを思い出して市民農園で土いじりを楽しむ事にしました。

最初は、鍬の入れ方も解からず、当時 85 歳のおじいさん（師匠）から手取り足取り教えてもらいました。師匠を中心とした畑仲間にも加わって、今では野菜作りのうんちくも言えるようになりました。

種を蒔いて、芽が出て、葉が大きくなって、花が咲いて、実がつく、収穫、食す・・・この 100 日程度の一連の成長に感動しています。お世話の度合いで成長に差が出てしまう事も解かったし、生でかじって本来の旨味も感じる事が出来るようになって野菜つくりの深みにはまってしまいました。

野菜つくりにもっと感動をするようになったのは、シェア畑の菜園アドバイザーの仕事をしてからです。野菜作りについて全く初めての人に野菜作りと収穫の喜びを楽しんでもらえるように、耕し方から収穫までを一緒になってアドバイスしてあげる仕事です。利用者一様に、芽が出てデター！害虫を見つけてはキャー！収穫してヤッター・ウレシイ！！を連発、一喜一憂して感動しているのを見て自分の事のように嬉しく思っています。

◇*◆*◇*

多くの出会い

理事長　永井 利矢(S44M)

定年 3 年前の 57 歳で関連会社への出向を命じられ、川崎市の工場から青森県の六ケ所村事業所に単身赴任して、ここで定年を迎えました。その後、同会社の鹿児島県串木野事業所に契約社員として 4 年半勤め、青森と鹿児島という異なる地での出会いを体験して、65 歳手前で完全退職しました。

退職後は、今後のことを考えながらのんびりしたいと思っていたのですが、意に反し、鹿児島から帰任早々で横浜市神奈川区内の地元自治会役員に就任することになり、担当する業務は、“なんと”県知事からの委託による「青少年指導員」とこれに関連する「子供会担当役員」です。これまで町内との交わりは全くなかったため、一から手探りで対応しました。

時にはもめごと等の苦労もあるなかで、多くの方々に助けられつつ、役員就任から 6 年が経過し 70 歳になりましたが、我自治会役員 30 名の中では 70 歳はまだまだ若手であり、たまにある自治会行事後の反省会を楽しみに、すべての行事に先手として参加しています（コロナ禍中の行事は休止）。

足掛け 7 年半続いた単身赴任時代の青森と鹿児島の方々との交流、その後の自治会でも行事開催計画や共同作業を介して、地元農家や元学校の先生、書道の大家等、多種多様のスキルを持つ役員との出会いがありました。この多くの出会いが貴重な財産であり、これからも新たな出会いを求めて、体力が続くかぎり活動していければと思っています。

◇*◆*◇*

「焼酎」の話

ホームページ担当副統括理事　奈良場 慶三(S46E)

1970 年代の衝撃な出来事です。会社の寮に居たころの話、鹿児島出身の相部屋の同僚がお土産に「酒」を買ってきてくれました。早速一口呑んだところ突然咽てしまいました。この酒は、いままで飲んだものとは違って匂いもきつく味も独特で、とても飲めるものではありませんでした。「なにこれ、これほんとに酒？」と聞いたら、これは「焼酎」というもので鹿児島では「酒」と言えば焼酎のことをいうとのこと。

その頃、酒の種類といえば日本酒、ビールそしてワインしか知らず、新潟県人の多くは「酒」といえば日本酒と思っていただけに、「酒」も所変われば品かわるで、いろいろあるものだと思いました。しかし当時はこんな臭い酒がよく飲めるものだと思っていました。

2000 年代前半になると日本全体の健康志向から焼酎ブームがやってきました。血糖値の上昇を抑える糖質やプリ

ン体が含まれない、また二日酔いしないという点から焼酎が好まれるようになったようです。このブームの背景には、減圧蒸留機の普及が焼酎ブームの火付け役になったと言われ、従来の常圧蒸留が香りや風味が豊かな反面、「芋臭い！」などと敬遠されがちだった焼酎に対し、減圧蒸留は雑味がなくクセのないすっきりした味わいを楽しめるようになりました。因みに皆さんご存じの「黒霧島」は減圧蒸留で造られています。

この減圧蒸留機の開発が焼酎メーカーではなく九州の日本酒蔵だったというのは、何とも面白い話だと思います。技術の力でお酒を美味しくしているという実感に、工業高校出身の一人として嬉しく思っています。

支部報告

総会・懇親会について

総会・懇親会担当統括理事　宮田 隆(S32E)

令和 2 年 7 月 4 日に予定していた総会・懇親会は、新型コロナウイルス感染者の増加が 2 月頃から顕著になり、その後の状況を勘案し、対策も限られることから、ついに中止の止むなきに至りました。

その後の新型コロナウイルス感染状況は感染者が全国に拡大し、4 月 7 日に緊急事態宣言発出となり、昨年末からの第 3 次の感染者拡大で、又また、本年 1 月 8 日に 2 度目の緊急事態宣言発出、延長、再延長となりました。

本年 7 月 3 日に予定した総会・懇親会について昨年末から検討中でしたが、実施環境が改善しないことから、3 月の役員会で、本年も中止と決定しました。何気ない日常がこんなに脆いとは思ってもいなかったことです。

対策の要となるであろうワクチンの接種も漸く始まり、高齢者は 5 月末からとの情報もありますが、世界規模での争奪戦、ＥＵの輸出規制の恐れや、オリンピック対応などもあり、予定通りに行えるのか流動的です。また、接種をしたからといって元の生活に戻れる訳でもなさそうです。ニューノーマルとかコロナ後とか言われている、感染防止に配慮しながらの生活が当分続きそうです。しかしこれらのやり方は人間の基本的な行動様式を制限しており、何れ、集まって談笑する生活に戻りたいものです。

総会・懇親会は折角お集まり頂く会員の皆様が楽しくお過ごし頂く為に、会食や、密で会話が行える事が必須かと思います。コロナ禍を乗り越え、再び皆様にお目にかかれる日を楽しみにしております。

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

支部会計報告

会計担当統括理事　永見 健治(S48E)

令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で、年会費の納入のお願いが 9 月にずれ込みましたが、会員の皆様には変わらず年会費とご寄付をいただきまして感謝申し上げます。お陰様で昨年とほぼ同様の金額になる見込みです。

同窓会の運営活動が例年のごとく出来ない状況ですが、コロナ禍終息後の活動再開に向けての雌伏となるように進めて参ります。今後も同窓会運営の原資となる年会費、ご寄付を継続していただきますようによろしくお願いいたします。

令和 2 年度寄付者一覧を掲載します。(敬称略)

No.	会員番号	氏　名	金　額	No.	会員番号	氏　名	金　額	No.	会員番号	氏　名	金　額
1	S20M0460	松永 巖	2,000	12	S33E0120	金子 正元	4,000	23	S40C0150	小坂井 明	1,000
2	S27E0270	佐野 明	2,000	13	S33E0160	小林 栄	3,000	24	S44M010B	金井 博光	18,000
3	S27M0220	田上 孝	3,000	14	S33E0390	山川 昭男	3,000	25	S44M038C	山崎 正二	2,000
4	S28M023A	土田 進	2,000	15	S34C0340	星野 卓史	1,000	26	S46e0240	野﨑 敬策	8,000
5	S28W0290	並木 政治	3,000	16	S34M008A	大渕 平祐	1,000	27	S46E025B	竹津 弘幸	1,000
6	S29E0260	土田 弘明	1,000	17	S35E0210	杉本 久栄	1,000	28	S46M014D	児玉 幸一	1,000
7	S30E0330	星 清善	1,000	18	S36E0370	星 富夫	3,000	29	S46M020C	塩入 晴夫	1,000
8	S31M005B	小川 敏夫	1,000	19	S37ｅ0280	髙橋 大二	2,000	30	S46M027A	原 勝英	3,000
9	S31M020A	近藤 一義	8,000	20	S37M011B	中村 秀和	3,000	31	S46M032A	松本 彰	1,000
10	S32E0370	宮田 隆	2,000	21	S38W0010	相澤 功	1,000	32	S48E026B	永見 健治	1,000
11	S32M035B	三木 逞弘	2,000	22	S40C0130	加藤 智	3,000	合計（円）			89,000

訃報

名簿担当統括理事　星 富夫(S36E)

次の方々がご逝去されたとの連絡がありました。謹んでご冥福をお祈りします。

卒業年	科別	会員 No.	お名前	ご逝去　年月日	備　考
昭和 37	染織	S37C0370	本田 英夫 様	令和 2 年 6 月 15 日	
昭和 29	機械	S29M027A	中野 新吾 様	令和 2 年 6 月	
昭和 27	機械	S27M0220	田上 孝 様	令和 2 年 6 月 18 日	
昭和 29	電気	S29E0070	遠藤 久仁男 様	令和 2 年 5 月 1 日	
昭和 29	電気	S29E0160	近藤 昭男 様	令和 2 年 10 月 19 日	
昭和 46	機械	S46M006A	小川 芳春 様	令和 2 年 6 月 14 日	
昭和 36	機械	S36M015B	小比田 十三 様	令和 3 年 4 月 16 日	

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

東京支部ホームページをご覧ください

ホームページ担当統括理事　杉本 久栄(S35E)

東京支部のホームページは平成 19 年 8 月に開設しました。以来令和 3 年の今日まで進歩しつつ 23 年間続いています。右側の上図は開設当初のトップページです。長年このトップページで閲覧して頂きましたが平成 31 年 4 月にリニューアルし、現在は下図のようなデザインのトップページになっています。

スマートフォンで閲覧する方も増えてきたことから、スマートフォンに対応しやすいようにデザインを変更したものです。ホームページには開設当初からの東京支部長挨拶や支部会則、役員名簿、総会懇親会の模様や支部活動報告、沢山ある同好会の活動報告、東京支部便りの創刊号から令和 2 年発行の 18 号までの電子版、大先輩からの投稿をはじめ多くの投稿が閲覧できます。

皆様も発信したい情報がありましたらホームページ担当のメールアドレスまでご連絡下さい。また、母校のホームページや同窓会本部のページ、会員が発信しているホームページにもリンクをしていますので、母校の状況や同級生の活躍等も簡単に確認できます。東京支部ホームページは支部会員皆様のページです。是非ご覧下さい。

「長岡工業高校同窓会東京支部」で検索するか下記のＵＲＬで　閲覧する事が出来ます。

ＵＲＬ：https://choko-tokyo.sakura.ne.jp/

また、スマートフォンやタブレットでは右のＱＲコードを読み込むことで閲覧できますので、ぜひサイトを訪れて下さい。ホームページ担当のメールアドレスに連絡頂いた方には、更新の都度メールにて更新情報を連絡していますので、是非、メールでご連絡下さい。なお、メールアドレスを変更した場合には御面倒でもその旨をご連絡下さい。宜しくお願い致します。

ホームページ担当のメールアドレス：hp@choko-tokyo.sakura.ne.jp

◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*◆*◇*

編集後記

広報・記録担当統括理事　川村 吾一(S36E)

コロナ禍の影響で昨年 7 月の東京支部総会は中止となりました。それに伴い東京支部だより第 19 号では昨年度総会・懇親会や支部同好会並びに県人会活動記事は掲載なしの止む無きに至りました。しかしながら次の多数の皆様方より本紙第 19 号用に貴重なご寄稿を賜り立派な紙面を飾る事が叶い深く感謝申し上げます。

①母校長工高橋校長　②長工同窓会本部品川事務局長　③我東京支部と親交が深い若波会や村松高校東京同窓会各会長他並びに東京新潟県人会で盟友の舞 さくら歌手　④東京支部 金井支部長はじめ会員諸氏

コロナ禍継続で令和 3 年 7 月東京支部総会も中止決定です。次回第 20 号にも奮ってご寄稿賜りたく切望します。

編集委員

委員長	川村 吾一	(S36E)	委員	塩入 晴夫	(S46M)
委員	永井 利矢	(S44M)	委員	今井 広	(S46M)
委員	竹津 弘幸	(S46E)	委員	野﨑 敬策	(S46e)
委員	児玉 幸一	(S46M)	委員	奈良場 慶三	(S46E)